

「住吉の語り部になりたい」 シリーズ第14回

料亭つたも主人・深田正雄

2012年5月25日

住吉町から栄3丁目へ、料亭「つたも」の業態変更と生き残り

芸者・置屋・料亭三業者「伝統芸能と遊興のクラスター」住吉も昭和41年に新住居表示として栄3丁目として風情も粹も感じさせない名称に近隣町内と一緒に変更統一。高級料亭の連なる住吉2丁目東側も各店舗の事業形態が大きく変遷してきました。

住吉の角地で創業100周年を迎える料亭蔦茂も生き残りのため営業形態を余儀なくされました。完全個室の数寄屋造りのお座敷で芸者衆とともに会席料理を楽しみながら接待するという料亭特有の男性客中心の基本パターン、中には夕刻に来館して一風呂浴びて浴衣に着替えてくつろぐお客様もございました。「料亭」は、建物の構えや庭の佇まい、床の間の掛け軸や置物など調度品の贅沢さ、生けてある花の風情、女将の挨拶や立ち居振舞いなど、すべての要素を複合的に楽しめる**日本文化のテーマパーク**といえます。

しかしながら、生活の洋風化と女性の社会進出、旅館からホテルの利用、社用需要の減少など従来のやり方ではお客様のお好みに対応できなくなってまいりました。

平成元年には政府のバブル鎮静化政策の一つで「**地価税導入**」が決定しました。私どもを含め繁華街に土地を所有する形態では、坪1000万近い評価に対して何%課税、つまり売上の何割かの地価税が徴収されるというとんでもないこととなりました。そこで、従来の旅館としての宿泊業務を止めることにより住み込み社員の福利厚生施設の一部が風呂・トイレ・調理場・お庭・・・があることにして、営業スペースの低減措置申請を企てた経緯があります。戦後、旅館として認可され料亭を営む名古屋特有の大手「割烹旅館」がすべて宿泊を廃業することとなり、おもてなし文化の衰退に拍車がかかったようにも思えます。しかし、地価税に対しては批判も多く結局1年のみで実質廃止となりましたが、今更、宿泊業も再開できず残ったのは社名「(株)蔦茂旅館」のみとなりました。

旅館業から撤退で朝食・布団の作業もなくなり昼会席をスタート、女性マーケットへの進出、従来料亭のお休みであった週末には婚礼・結納・法事など家族催事への対応、不明朗な料金の明確公示化、常連客のみの売掛勘定から一見客受け入れクレジットカード導入、数寄屋造り畳に椅子・テーブル・・・創業の深田良矩爺さんが見たらチョット悲しくなるのではと思います。

とくに、椅子席での和風座敷の床の間、掛け軸を額装に、生け花の先生も苦慮しております。お客様が腰掛けては、芸者衆のお酌やお座付き（踊りや唄）、お座敷遊びも風情が失われていくようにも感じます。

特に2008年9月のリーマン・ショックから法人接待需要が激減して、市内老舗料亭が相次いで廃業撤退となり、「つたも」も大打撃で存続の危機に瀕しておりました。婚礼市場

への参入も店内スペース的な制約もあり限られておりますが、栄・若宮八幡社さん、一宮・真澄田神社さんへの出前婚礼サービス、各家庭・企業さまへの出張宴会・弁当配達なども積極的に対応させていただいております。2010年6月からは「料亭の昼ごはん」平日限定お一人様@2000円込みプランを実施、気軽に女性や近所のお勤めの方々に敷居の低くなった「つたも」ご利用いただいております。また、同時に**ジュエール名古屋タカシマヤ地下1階ごちそう館**に出店、料亭の心意気・手作りのお惣菜お弁当販売で大好評をいただいております。本店調理場が手狭になりセントラルキッチンを丸の内魚の棚にオープン、幅広いお客様からの真の和食の味へのご要望に対応できるようになりました。住吉地区の唯一の料亭となりましたが、最近は街づくりの一環として地元の歴史を知っていただきたく有志の仲間とともに旧町名の復活運動を楽しんでいます。先般5月9日 13時から テレビ愛知「山浦ひさしのトコトン! 1スタ」での旧町名活動での小生の映像をHPアップしました! ご笑覧いただければ幸いです。

<http://www.fukkatu-nagoya.com/media/keisai.html>

写真は如水会名古屋支部ブログより、テレビ出演案内：

